

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

### 1 単元名 「地域 発見！」(全45時間)

#### ◇本単元を構想した意図

##### <地域のよさや課題を見出し自分にできることを試みる総合的な学習の時間の具現>

昨年度から、地域素材を生かした総合的な学習の時間を構想し、実践に努めてきた。

地域は、子ども、保護者、地域の人たちがともに生活する舞台である。そこには、その地域独自のよさがある。例えば、地域の歴史や古くからの建物、旧跡、宝物等の文物であったり、伝承、伝説、行事等の文化であったり、夢をもち自分の理想の実現に向けて生き生きと生きている人そのものであったりする。

子どもには、そうした地域のよさを見出し、自分が生活している地域を誇れる子どもになってほしいと願い、総合的な学習の時間の実践を進めてきた。

一方、地域には課題もある。例えば、地域の美化、環境保全、少子高齢化、都市化等に関わる問題である。いずれの問題も、単にこの地域の問題だけではない。他の地域にも見られる問題である。しかし、子どもが生活する地域を舞台とした時、その問題は、子ども自身に解決を迫る、自分ごととしての課題になる。

子どもには、総合的な学習の実践を通して、地域のよさや課題を見出し、地域を舞台として自分にできることを試みる子どもになってほしいと強く願っている。

##### <昨年度実践を引き継ぐ今年度実践の推進>

昨年度、「出会いのアルバム」を実践した。子どもは、地域で夢や希望をもって活躍している人(TN氏、TY氏等)と出会った。その出会いを通して、その人柄にふれ、人物像や取組を調べ、地域の課題(不審者が多い、ポイ捨てのごみが多い等)をとらえ、自分たちにできること(当校の『ふれあいスクール』で年少の子どもの世話をする、地域のごみ拾いをする等)を試みた。

今年度は、本単元「地域 発見！」を実践している。子どもは、自分が住む地域の歴史や祭り等の地域のよさを調べて保護者や地域の人に紹介したり、「少子高齢化」、「都市化」に伴う地域の課題をとらえたり、「これからのまちづくり」に向けて自分たちにできることを考え、試みたりしようとしている。

いずれの実践も活動の舞台を地域とした。そして、学習活動の過程では、いずれの実践も地域のよさ(人、歴史、文物、文化)を見出し、ふれる場をもった。それを自分の視点から調べ、課題を見出し、解決の方法を考え、自分にできることを試みる場をもった。2年間に渡って共通の方法で実践を推進することで、「地域のよさや課題を見付け、自分にできることを試みる総合的な学習の時間の具現」を図る。

##### <総合的な学習の時間の学習の過程でこそ高まる子どもの力の向上>

単元の始めに、地域の人とかかわったり、地域を歩いたりする場を設定し、子どもが気付きや疑問、関心をもつことができるようにしてきた。そして、地域のことを調べ、まとめ、発表し、自分にできることを試みる過程で、子どもが課題を見付ける力、情報を収集する力、情報を整理、分析する力、自分の考えをまとめ、表現する力が身に付くように指導してきた。

こうした力は、各教科でも学習技能として高めていくことが必要である。総合的な学習の時間においては、子ども自身が関心をもち、自分ごととして解決を図っていく探究的な学習の過程をふまえることで、子ども自身が目的意識をもって、これらの力を高めることができる。子どもが学ぶ目的意識をもった時が、指導の絶好のチャンスである。

地域に関心をもち、自分ごととして解決を試みることは、「自立した学び」(自ら考え試みる)と「開かれた学び」(協同して考え試みる)の両方ともにつながる学びであると考えている。

## 2 単元の見目標

- ・地域の道を歩くことを通して、気付きや疑問をもち、調べる視点や課題を設定する。
- ・地域の人とかかわることを通して、地域のよさを見出し、課題の追究を進める。
- ・調べたことや考えたことをまとめ、発表することを通して、この地域のまちづくりについての自分の考えをもつ。

## 3 単元の評価規準

I 課題追究力	II かかわる力	III 表現する力	IV ふりかえる力
(ア) 地域の道歩き、気付きや疑問をもち、調べる視点や課題を設定する。 (イ) 調査や地域の人からの聞き取りをもとにして、課題について継続的に調べる。	(ア) 地域の人に聞きたいことを質問する。 (イ) 友達とともに考えを整理したり、まとめたりする。	(ア) 付箋等を使って、気付きや考えを整理したり、調べたことを作文シートにまとめたりする。 (イ) 調べたことや自分の考え、主張点を明らかにして作文を書いたり、ポスターにまとめて発表したりする。	(ア) 作文等を読み直し、調べたことをふまえて考えをまとめる。 (イ) 調べたことや地域の人から聞いたこと、実際に試みたことをふまえて、これまでの活動を振り返り、「まちづくり」について自分の考えをもつ。

## 4 単元の特長

本単元の特長は、以下の三つである。

一つは、道を歩くことによって、この地域の歴史や人々の生活を知ることである。

現在、学校、及び校区の多くは住宅地となっている。しかし、学校周辺の道を歩くと、その違いが顕著である。校区を東西に延びる県道（昭和初期にできた道）沿いの姥ヶ山・山二ツ方面は、道幅が細く、曲がっており、昔の雰囲気を残すまち並みの地域である。昔からの大きな家が小高い丘の上にあたり、昔からの蔵が残っていたりする。一方、その道から北にある京王・高志方面は、道幅が広く、直線で、現代的なまち並みである。モダンな家が多く、色彩も多様である。その違いに道を歩くことで気付き、疑問をもち、自分で視点や課題を決めて調べることで、この地域の歴史や人々の生活を知る。

二つは、道を歩くことによって人とかかわりが生まれ、地域のよさや課題を見出すことである。

この地域一帯は、かつて「芦沼」と呼ばれていた。この地域の農民は、江戸時代初期から昭和30年代頃まで、腰まで水につかって稲作をしていた。厳しい生活環境の中、人々は日々の農作業や地域の祭り等によってつながり、伝説、田舟（キツォ舟）による移動、水難で犠牲になった人々を弔う地蔵等、水辺で生活する者独自の文化をもった。一方、こうした土地を宅地化した京王・高志方面を中心にして、昭和30年代以降、都市化が急速に進んだ。新しいまちであるがために、住民相互のつながりをつくり出そうと新たな祭りや行事を模索してきた。それぞれの地域のこうしたよさや課題が、実際に地域の人とかかわることで見えてくる。

三つは、活動を継続することによって、この地域のまちづくりを考え、自分にできることを試みることである。

都市化の特色として、「非自給自足性」、「開放性、変動性」、「異質共同体」、「生活共同手段」、「非可視性」があると言われる。（田村明『まちづくりの発想』、1987年、岩波書店）この地域の第一次産業従事者の減少等から、この地域全体が都市化の状況にあることが分かる。独自の文化をもってきた姥ヶ山・山二ツ方面、新たな文化をつくらうとしてきた京王・高志方面ともに、少子高齢化の時代を迎え、新たな地域コミュニティーの形成を目指している。この事実にくれた時、これまでの活動をふまえて、これからのまちづくりはどうあるべきかを考え、自分にできることを試みる。

## 5 今までの学習の経過

### (1) 昨年度の総合的な学習の時間における学習活動

昨年度、子どもは、学級、学年の友達や異学年の児童との交流、地域の人との出会いの中で「出会いのアルバム」をつくり、整理することを通して、自分を見つめ、学校や地域で自分にできることを考え、試みた。

子どもは、学級、学年の友達や異学年の児童との交流を通して、その人のよさをカードに書き、アルバムとしてまとめた。その後、出会う人物を身近で活躍している地域の人（当校の『ふれあいスクール』のTN氏）や、地域で夢や希望をもって活躍している人（10年以上に渡って毎朝、地域のごみ拾いをしているTY氏 等）へと広げていった。子どもは、この地域の一番の課題を「ごみ問題」とした。そこで、「自分たちにできること」として、その解決に向けて方法を考え、ごみ拾いを行ったり、山潟地区コミュニティ協議会での発表を行い地域への啓発を図ったりした。

### (2) 今年度の総合的な学習における学習活動

「地域 発見！」は、6月から12月上旬にかけた単元である。

昨年度から、子どもは地域の課題をとらえ、その解決に向けて自分にできることを試み、地域に働き掛けてきた。こうした子どもに、本単元では、道を歩くことによって、この地域の歴史や人々の生活の様子をとらえ、自分で視点を決めて調べ、地域の人とかかわりながら課題の追究を進めるようにしてきた。単元の終末では、こうした活動をもとにして、この地域のまちづくりについて、自分の考えをまとめ、発表し、自分にできることを試みるようにする。

#### ① 第1期の学習活動（6月～9月）

子どもは、地域の道を歩き、気付きや疑問もち、調べる視点を決めた。

6月上旬から、姥ヶ山・山二ツ方面、京王・高志方面の道を歩き始めた。最初、姥ヶ山・山二ツ方面から歩いた。細い道、曲がった道を歩き、山二ツ諏訪神社まで行った。その後、京王・高志方面の道を歩いた。直線の道、車道、歩道ともに十分な幅のある道を歩き、高志高校まで行った。

地域の道を歩く活動を通して、子どもは次のことに気付いた。それが疑問となり、調べる視点となった。

#### <姥ヶ山・山二ツ方面>

- ・古い家、大きな家、昔からの家が多い。→なぜそのような家が多いのか。
- ・納屋（蔵）があり、マーク（家紋）が入っている。  
→なぜ納屋があるのか。マークは何か。
- ・道が細く、曲がっている。→なぜ細く、曲がった道が多いのか。
- ・古い、大きな家は、今でも少し高い所（『山』）に建っている。→他にも「山」はあるか。
- ・山二ツ諏訪神社は、6m位の高さの山に建っている。→これが「山二ツ」の「山」の1つか。
- ・山二ツ諏訪神社には夏に祭りがあるようだ。→どんな祭りなのか。



#### <京王・高志方面>

- ・新しい家、カラフルな家が多い。→いつ頃建ったのか。なぜそのような家が多いのか。
- ・道が広く、まっすぐだ。→なぜそのような道なのか。
- ・コンビニエンスストアやスーパーマーケット、公園が多い。→いつ頃できたのか。
- ・学校、幼稚園、保育園が多い→いつ頃建ったのか。なぜなのか。



子どもが調べる視点をもったり、実際に調べ始めたりした頃、大きく次の3つの授業を行った。一つは、この地域、及びこの地域の周辺の地名に「山」がつくことに関する授業（6月上旬、中旬）である。「山」がつく場所を地図で確認したり、昔の地図（S22）と比較したり、実際に地域を歩いたりした。このことを通して、子どもは、「山」とは、山二ツ諏訪神社が建つ6m程の高台や、現在の田の水面からわずかでも高くなっている土地をも意味することを知った。水位が増した時、水かあがってこない所も「山」なのである。



二つは、地域の歴史に詳しいTK氏（姥ヶ山地区在住）から話を聞く授業（7月中旬）である。T氏の話聞くことにより、子どもは学校周辺の細くて曲がった道の多くが、かつては堀であったこと、この地区の古くからある家の後ろにも堀があり田舟で移動していたこと、江戸時代初期にこの地域に来た数件の家から姥ヶ山地区での生産活動が始まったこと、その数件の家を結ぶ道が最初に作られたこと等を知った。

三つは、「芦沼」での人々の生活を確認した授業（9月上旬）である。子どもは4年生の時、この地域がかつて「芦沼」と呼ばれており、当時の農民が相当な苦勞をしてこの地域で生活していたことを学習した。今、子どもが6年生としてこの地域の学習を進めていることから、改めて当時の生活の様子をビデオで見せた。『芦沼』、1954年 山峡視覚教育研究所 子どもは、当時の農民の過酷な生活の様子を改めて見た。子どもは、この地域の昔の人々の壮絶な生活を再認識した。

こうした学習活動を通して、第1期全体の学習課題が「この地域の昔の人々の生活やこの地域のよさを調べること」となった。夏季休業中から9月にかけて、子どもはそれぞれの視点から課題解決に向けて追究を進めた。

## ② 第2期の学習活動（9月下旬～10月）

当校では、10月下旬の文化祭で総合的な学習の時間に関する発表を行う。保護者や地域の人が集まるこの機会を利用して、第2期全体の学習課題が、「調べたことに関する情報提供、情報収集」となった。

子どもは、自分が住む各地区（『姥ヶ山地区』、『山二ツ地区』、『京王・高志地区』）ごとに調べたことをまとめ、ポスターを作った。子どもは、伝えるべきポイントが明らかになったり聞く者の関心を惹きつけたりするようにポスターの題名や見出し、内容を決めた。あわせて、保護者や地域の人から新たな情報を得るように、対話の方法も工夫した。



姥ヶ山地区に関するポスターは、「We love 歴史の姥ヶ山～やさしく元気なまち～」という題名であった。子どもは、「姥ヶ山」の名称の由来、古くからの家、まち並みが残っていること、現在も昔からの行事があること、高齢者のための施設があること等を伝えた。



この地域には、「サイの神」という行事がある。10年程前から復活した、姥ヶ山自治会の小正月の行事である。昨年からは京王自治会も一緒に参加している。子どもの多くはその行事に参加したことがない。ポスターセッションに参加した保護者、地域の人、この行事の由来、具体がよく分からず、十分な情報を得ることができなかった。そこで、姥ヶ山地区を中心とした6年生の一部の子どもが、準備に参加することを地域の人に申し出、一緒に活動（11月16日）した。

山二ツ地区に関するポスターは、「思わぬ発見！！」という題名であった。子どもは、「山二

ツ」の名称の由来、この地域の行事、山二ツ地区と姥ヶ山地区の境目の堀、現在、山二ツ方面に建っているスーパーマーケットの土地の以前の状況等を伝えた。

この地域に残る堀が埋められずに残っている理由について、保護者、地域の人からは十分な情報を得ることができなかった。実は、この堀は「亀田郷土地改良区」が現在も所有している。したがって、無断で宅地化等することはできないのである。こうした堀は、姥ヶ山・山二ツ方面を中心として、多数現存する。

京王・高志地区に関するポスターは、「我が地区 京王・高志」という題名であった。この「京王」の名称の由来、新しいまちであること、地域コミュニティをつくらうとしていること、そのための行事があること、現在、急速に少子高齢化が進んでいること等を伝えた。

このポスターを作った子どもが、文化祭での発表前に、京王の歴史に詳しいMT氏（京王自治会長）から話をしてもらおうように連絡をとった。子どもは、夕方にM氏宅まで行き、地域コミュニティづくりに力を入れた行事、少子高齢化に対応した自治会の在り方等について説明を聞いた。子どもは、地域コミュニティづくり、少子高齢化という、この地域の重要な課題を感じ始めた。

### ③ 第3期の学習活動（11月～12月上旬）

文化祭の後、ポスターセッションで得た情報について、全員で共通理解する場をもった。また、「サイの神」の準備に参加した子どもの話から、参加した人に高齢者が多かったことに気付いた。その背景として、昨年度の「ごみ問題」等も鑑み、「都市化によって人間関係が希薄化しているのではないか」、「少子高齢化が進んでいるのではないか」という考えが出た。これは発足当初から、地域コミュニティづくり、少子高齢化社会への対応を進めているMT氏の課題と一致する。

そこで、第3期全体の学習課題を「これからのまちづくり」とし、追究を進めていく。この地域の課題解決に迫る「これからのまちづくり」について考え、自分たちにできることを試みる。

単元の終末では、調べたことや地域の人から聞いたこと、実際に試みたことをふまえて、これまでの活動を振り返り、「まちづくり」について自分の考えをもつ。

## 6 指導の構想

### (1) 子どもの発達の時期にふさわしい体験活動と課題の設定

昨年度来、総合的な学習の時間において、その時期の子どもの発達にふさわしい体験活動と課題の設定に努めてきた。木村吉彦氏（上越教育大学）は、このことについて次の考察を行っている。（『生活科から総合的な学習へ』、1999年、上越教育大学研究紀要第19巻 等）

木村氏は、次ページの図のように「学びのIn・About・For」を主張している。すなわち、学習の流れと子どもの学びや育ちを連続的にとらえていることが分かる。

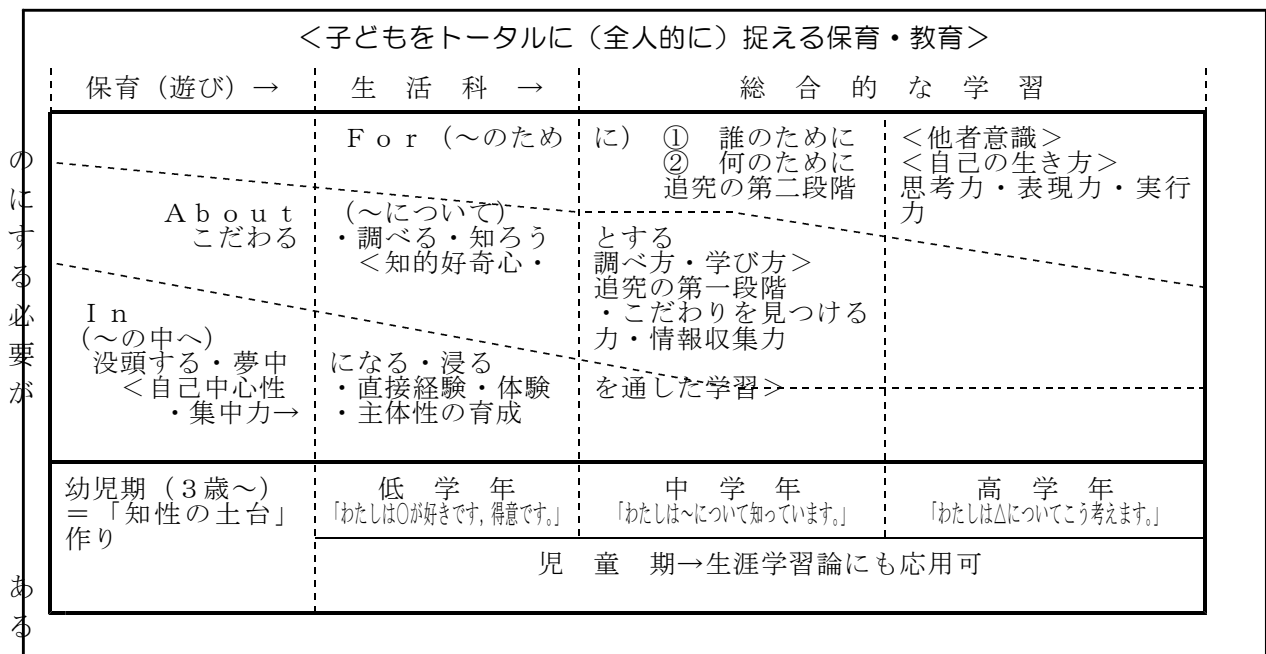
木村氏によると、「In」とは、学習対象となる場所そのものに入り込むことによって、その場所がどういうものであるかを体と諸感覚を使って満喫し、そこでの活動に没頭する活動である。

「About」とは、Inの活動の中で見つけた感性的な課題についてこだわりをもち、その疑問について解決しようとし、様々な調べ学習に取り組む活動である。

「For」とは、体験を通して得た実感の伴った問題意識に裏付けられ、自分で集めた情報（考える材料）を駆使して学習対象に対して自分はどういう貢献ができるかを考える活動である。

こうした特徴をもつ体験活動を設定する際、子どもの発達の時期にあったも





そのバランスも前ページの図に示されている。感性と身体を通じた体験を基盤としつつ、高学年の子どもにおいては、他者意識や自己の生き方をみつめる学習活動の充実が大切なのである。

そこで、本單元においても「学びの In・About・For」をふまえて、学習活動を展開する。すなわち、「In」、「About」の段階としての第1期の学習活動、それをまとめ、発表し、さらなる「About」を見出した第2期の学習活動、そして、「For」としての第3期の学習活動である。

## (2) 小グループで思考する場と学級全体で思考する場の設定

担任は、常時、子どもの座席を5人程度の小グループで配置し、学習活動に話し合い活動を取り入れてきた。このことにより、子どもが活発に考えを出し合い、練り上げる場を多く設定し、話し合う雰囲気や技能を高めてきた。

総合的な学習の時間においても、こうした「協同的な学び」の大切さが言われている。

友達と協同して取り組むことで、学習活動が発展したり課題への意識が高まったりして、問題の解決や探究活動の質が高まる。また、異なる見方があることで解決への糸口もつかみやすくなる。このように、問題の解決や探究活動においては、友達などと協同して取り組むことが大切である。友達と一緒に活動したり話し合ったりしながら、自己を振り返り自分の考えや意見を再構築していく。  
 （小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編）

そこで、本單元においても、小グループで思考する場を設定する。例えば、地域の道を歩き、気付いたこと、疑問点を付箋紙に書かせた後、小グループ内で分類し、見出しを付けさせ、お互いに視点を共有する。あるいは、調べたことを小グループ内で発表し、相互に批評し、全体発表に向けた改善点を指摘させ、発表の質を高める。

文化祭でのポスターセッションでは、各地区ごとにメンバーを構成した。調べること、発表の場等、状況に応じて、柔軟に小グループのメンバーを変えて構成する。

こうした小グループによる思考にあわせて、学級全体で思考する場を設定する。学級全体で考えを共有、分類、価値付け等を行うことで、思考を拡散させたり収束させたりして、単元の展開にダイナミズムをもたせる。

## (3) 「自分にできること」を地域で試みる場の設定

生活科や総合的な学習の時間において、子どもにとって身近な地域こそが学びの舞台である。地域で生きる人々とふれあい、地域のよさや課題を見出し、自分にできることを試みる等、自ら地域に働きかける子どもになってほしいと強く願う。

新潟市教育ビジョンにおいて、「学校教育の方向」の1つとして「自分の力に自信をもち、地域

を誇れる子ども」の具現が求められている。総合的な学習の時間においても、「地域社会への参画」の大切が言われている。

身近な人々や社会、自然の問題について、児童だけでは解決できない課題を見出した時、他者と協同して解決しようとする活動に発展させていくことも大切である。例えば、地域の人や専門家から話を聞き協力を得る、地域の人々と自然環境について考える、異なる学年や世代の人と協力して地域活動に参加するなど、学校、地域が一体となって取り組む活動へと創造的に発展させることが考えられる。こうした幅広い交流活動は、他者の生き方を自己の生き方や将来の姿と重ね合わせることによって、他者のよさを発見し、自分のよさを自覚する機会とすることが期待できる。また、地域社会に参画しようとする意識を高めることにもつながる。

(小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編)

「地域活動への参画」は、前述の「学びのIn・About・For」における、主に「For」の段階に該当する。地域に生きる人の話を聞いたり、ともに活動したりすることを通して、子どもは地域に生きる自分を見出し、自分にできることを考え、実践を試みるであろう。

本単元でも、「地域活動への参画」までを含んだ学習活動を展開し、自ら地域に働きかける意識を高める。

#### (4) 実践したカリキュラムと今後の構想カリキュラム (全45時間)

種類	時	○ねらい ・主な学習活動	評価規準 (B)の状況 【評価方法】	評価観点				十分満足できる (A)状況	努力を要する (C)状況への手だて
				I	II	III	IV		
実践したカリ	22時間 (6月～9月)	<p>&lt;地域の道を歩く&gt; ○地域の道歩き、気付きや疑問もち、地域を調べる視点をもつ。 ・姥ヶ山・山二ツ方面、京王・高志方面の道歩き、気付きや疑問をもつ。</p>	<p>・姥ヶ山・山二ツ方面、京王・高志方面の道歩き、気付きや疑問点をそれぞれ5枚程度の付箋紙に書き、班ごとに地図上にまとめる。 【道を歩く様子の観察、付箋紙への記述、地図への添付での観察】</p>	○		◎		<p>・姥ヶ山・山二ツ方面、京王・高志方面の道歩き、気付きや疑問点をそれぞれ5枚以上の付箋紙に書き、班ごとに付箋紙を分類する際、分類の観点を発言する。</p>	<p>・姥ヶ山・山二ツ方面、京王・高志方面の道の画像を用意し、それを見ながら気付きや疑問点を対話を通して出す。</p>
		<p>&lt;地域を知る&gt; ○この地域の地理的、歴史的背景を知る。 ・この地域の昔と今の地図を比較し、違いなどを整理することを通して、この地域を調べる視点をもつ。</p>	<p>・この地域の昔と今の地図を比較し、昔と今の様子の違いに気付き、興味をもったことを調べる視点とする。 【作文シートへの記述、発言】</p>	◎	○		<p>・この地域の昔と今の地図を比較し、これまでに学習したことと関連づけて調べる視点をもつ。</p>	<p>・地図を比較し、道や土地の様子について大きく変わっていることに着目させ、対話を通して引き出す。 ・この地域で大きく変化したこと、興味をもてそうなことを紹介し、視点をもつように</p>	

キ ュ ラ ム	<ul style="list-style-type: none"> <li>地名の「山」に着目して、この地域の「山」を調べる。</li> <li>地域の歴史に詳しい人(高橋喜代治氏)から話を聞き、この地域の昔の生活や、様子を調べる。</li> </ul> <p>&lt;昔の人々の生活やこの地域のよさ調べる&gt; ○追究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季休業中の追究</li> <li>発表会</li> <li>9月中の追究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この地域を歩き、「山」を探し、その特徴を知る。 【作文シートへの記述、発言】</li> <li>説明を聞き、分かったことをまとめる。 【作文シートへの記述、発言】</li> </ul>	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>この地域を歩き、「山」を探し、その特徴や背景をこれまでの学習と関連づけて説明する。</li> <li>説明について自分の視点から質問したり、分かったことをまとめたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この地域を歩きながら、高台になっている所を説明する。</li> <li>説明のポイントを一緒に確認し、箇条書きでまとめる。</li> </ul>	促す。	
10 時 間 (9 月 下 旬 10 月)	<p>&lt;調べたことをまとめ、発表する&gt; ○文化祭でのポスターセッションを通して、この地域の情報提供、情報収集を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに調べたことを振り返り、地区ごとにポスターにまとめる。</li> </ul> <p>・文化祭でポスターセッションをして、情報提供、情報収集を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことを発表し、相互に関係付けてポスターを作る。 【ポスターを作る話し合いの様子】</li> <li>保護者や地域の人に分かりやすく説明する。 【ポスターセッションの様子】</li> </ul>	◎	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表したことをもとに、適切な題名、見出しを考え、話し合いを推進する。</li> <li>保護者や地域の人と対話を通して説明したり、必要な情報を引き出したるりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表すべき点、ポスターを作る際の役割を一緒に考える。</li> <li>発表すべき点、グループの中での順番を一緒に考え、円滑に発表ができるように促す。</li> </ul>	
今 後 の 構 想 力	<p>&lt;これからのまちづくりを考える&gt; ○「これからのまちづくり」について考え、発表し、自分にできることを試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターセッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の地区のポス</li> </ul>	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターセッションを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の地区のポスタ</li> </ul>	



リ キ ュ ラ ム	月 々 12 月 中 旬 )	ンを通して得た情報を共有する。	ターセッションを通して得た情報を知る。 【発言、作文シートの記事】				通して得た情報やこれまでの学習活動をふまえて、今後の学習活動の方向について積極的に考えを出す。	一セッションでの情報を一緒に確認し、理解を促す。	
		・「サイの神」の準備を体験した友達からの話を聞き、「これからのまちづくり」を学習課題とすることを共有する。	・「サイの神」の準備を体験した友達の話とこれまでの学習とを関連付け、今後の学習課題を知る。	◎			◎	・「サイの神」の準備を体験した友達の話とこれまでの学習とを関連付け、この地域のよさ、課題について積極的に考えを出す。	・今後の学習課題と一緒に確認し、グループで協力して考えるように伝える。
		・「これからのまちづくり」について、各地区ごとに考え、ポスターにまとめる。	・「これからのまちづくり」について、考えを出す。 【発言、作文シートへの記事】	◎	◎	◎	◎	・「これからのまちづくり」について、考えを出し、友達の考えをまとめながら進行する。	・「こんな行事があったら楽しい」等、具体的な視点から考えるように働きかける。
	本 時	・地区ごとにまとめたポスターを地域の人に提案し、意見をもらう。	・友達と話し合い、提案の見直しに関する意見を述べる。 【グループでの話し合いの様子】	◎	◎	◎	◎	・友達と話し合い、提案を改善・修正する方法を複数提案している。	・提案で受け入れられた点、見直しを勧められた点を確認し、考えを一つは出すように働きかける。
		・自分たちができることを試みるための準備をし、実際に試みる。	・自分たちができることを試みるための準備をし、自分の役割を果たす。 【準備や実際の行動の様子、作文シートの記事】	◎	◎			・自分たちができることを試みるための準備や実際の行動で、友達の役割を考えながら実行する。	・役割を確認し、臆せずに行うように励ます。
		・これまでの学習を振り返り、「まちづくり」について自分の考えをまとめる。	・調べたことや地域の人から聞いたこと、実際に試みたことをふまえて、これまでの活動を振り返り、「まちづくり」について自分の考えをもつ。 【作文シートの記事】	◎	◎	◎	◎	・調べたことや地域の人から聞いたこと、実際に試みたことを関連付け、これまでの活動を振り返り、「まちづくり」について自分の考えを書き表す。	・「10年後このまちにいたらあなたは何をしたいか」等の具体的に視点を与えて、考えを書くように促す。

## 7 本時の学習 (36/45時間)

### (1) 本時のねらい

地域の人に「これからのまちづくり」について提案して意見を聞き、グループで話し合うことを通して、提案を見直し、改善を図る。

### (2) 本時の主張

-----

本時は、「学びのIn・About・For」における「For」の段階に該当する。「誰のために」（自分と自分が生きる地域の人のために）、「何のために」（自分も含めた地域に生きる人々がお互いにつながるようにするために）ということ念頭に置き、「地域活動への参画」を促す学習活動である。

子どもは、これまでの学習活動をふまえ、この地域の課題を「都市化による人間関係の希薄化」、「少子高齢化の進行」ととらえた。その課題解決を図るように自分が住んでいる地区ごとに「これからのまちづくり」について考えを提案する。この地域で生活している人から率直な意見を聞くことにより、自分たちの考えを各地区ごとのグループで見直し、改善し、自分たちにできることを試みる契機とする。

### (3) 本時の学習活動における具体の評価規準と十分満足できる(A)状況の判断基準

<Bの状況>	<Aの状況>
① 相手意識をもち、声量、速さ、間に気を付けて発表している。 ② 地域の人のお話を聞き、自分たちの提案と関係のあるものに気付く。 ③ 友達と話し合い、提案の見直しに関する意見を述べる。	① 相手意識をもち、声量、速さ、間に気を付け、聞き手の反応を確かめながら発表を進めている。 ② 地域の人のお話を聞き、自分たちの提案の改善・修正方法を具体的に考え、発言する。 ③ 友達と話し合い、提案を改善・修正する方法を複数提案している。

### (4) 本時の構想

本時のねらいを達成させるために、次の手立てをとる。

#### ① 地域の人に「これからのまちづくり」について、自分たちの考えを提案すること

本時では、地域で生活している人から子どもが考えた「これからのまちづくり」について、意見をもらう場を設定する。

子どもは、昨年度、この地域に課題を「ごみ問題」とし、「自分たちにできること」として地域のごみ拾いをしたり、山瀉地区コミュニティー協議会で発表して啓発を図ったりしてきた。子どもは地域で生活している人とかかわり、地域を舞台として自分たちにできることを試みることを通して、地域の課題の解決に向けて取り組んだ。

そこで、本時においても、地域の人とかかわり自分たちにできることを考える場を設定する。この地域の課題を「これからのまちづくり」とし、自分たちにできることを考え、地域の人に提案する。それに対する意見をもらうことで、子どもは自分たちの考えを見直し、改善を図ると考える。

#### ② 各地区で活躍している3名の方から意見を得ること

本時で招いた地域の方々について、詳細は次の通りである。

MM氏は、姥ヶ山地区の「サイの神」の行事（当地区では『サイの神プロジェクト』と呼ぶ）に関わる役員である。一部の子どもが準備の際、M氏に会っている。

S J氏は、山二ツ新興の自治会長である。子どもはこれまでにT Y氏（姥ヶ山自治会長）、MT氏（京王自治会長）とかかわりをもってきた。今回、子どもは3人目の自治会長と出会うことになる。

I R氏は、高志地区の育成部員である。当地区の行事の計画、運営に関して、率先して企画、実行してきた方である。MM氏が50代、S J氏が70代、I R氏は40代である。今回、子どもは、自治会の中で比較的若い世代の方と出会うこととなる。

地域で活躍しているこうした方から意見をもらうことで、本時を同じ地域に住む者同士で課題を共有し、その解決に向け共にじっくりと考え、取り組むための第一歩とする。子どもは、

自分が住んでおり、現在活躍している人に提案するのであるから、より具体的な意見をもらうことができる。このことで、子どもは提案のよい点、改善すべき点を見出し、改善の手掛かりを得ると考える。

### ③ 各地区ごとに「これからのまちづくり」を提案し、考えを見直すこと

本時では、地域の人からもらった意見を受け、各地区ごとのグループで話し合い、考えを改善する場を設定する。

子どもは、自分が生活する各地区ごとに、文化祭でのポスターセッションに向け、ポスターを作る等、地域の人との交流の準備をしてきた。ポスターを作るまでに、子どもは夏季休業中から自分が決めた視点から自分が住む地域や関心がある事柄について調べてきた。10月下旬の文化祭までに調べたことを持ち寄り、伝えたいことや保護者や地域の人に伝えたいことを吟味し、各地区ごとにポスターを作った。

そこで、本時においても各地区ごとに「これからのまちづくり」について地域の人に提案し、意見を受けて、考えを見直す場を設定する。自分が生活する地域だからこそ、意見をリアルに感じ、同じ地域で生活する友達と考えを交流させ、自分たちの考えを見直し、改善を図ると考える。

### (4) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点と評価
<p>○ 本時の学習の流れを知る。(1分)</p>	<p>今日の学習は、『これからのまちづくり』について地域の人に提案し、意見をもらい、改善しようです。学習の流れは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人に提案する。</li> <li>② 地域の人から意見をもらう。</li> <li>③ 提案を見直し、改善する。</li> <li>④ 改善した点を発表する。</li> </ol> <p>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの考えをしっかりと伝えよう。</li> <li>・どんな意見がもらえるかな。</li> <li>・特にこの点について助言してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に授業の流れを提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時の大まかな流れを理解することができる。【聞く様子の観察】</p> </div>
<p>○ 前時までにつくったポスターを地域の人に発表し、考えを伝える。(10分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Mさん、Sさん、Iさんに、「これからのまちづくり」について提案します。地域の人から意見をもらって、自分たちの考えを改善しましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・去年のように、地域でゴミ拾いをする。</li> <li>・地域でのあいさつをがんばる。</li> <li>・地域の行事への参加者が増えるように、私たちが学校の中でコマーシャルする。</li> <li>・地域の祭りをを行う時、準備の段階から私たちも参加させてもらう。</li> <li>・この地域のよさを地域の人にもっと知ってもらうように、私たちが伝える場をもつ。</li> <li>・私たち自身も、もっと地域の行事に参加する。</li> <li>・他の人たちも参加したくなるような行事を考えたり、今ある行事におもしろそうなイベントを取り入れたりする。</li> <li>・新しい行事を考える。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>相手意識をもち、声量、速さ、間に気を付けて発表している。【発表の様子の観察】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのグループが発表する。1つのグループの発表時間を3分以内とする。</li> <li>・子どもの考えを板書し、整理する。</li> </ul>
<p>○ 地域の人から意見をもらい、自分たちの考えを見直す</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域の人からの意見を聞きます。自分たちの考えと関係があるお話に気を付けて聞</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域の人のお話を聞き、自分たちの提案と</p> </div>

す。  
(10分)

○ グループごとに  
考えを見直し、改  
善する。  
(10分)

○ グループごとに  
見直した点を発表  
し、みんなに伝え  
る。  
(10分)

○ この時間を通し  
て、心に残ったこ  
とを公表し、振り

きましょう。

- ・地域の人と一緒にごみ拾いやあいさつをするように工夫するとよい。
- ・1月に「サイの神」がある。どのように全校の子どもたちに伝えるのか、方法をはっきりさせるとよい。
- ・地域の祭りが始まる前、ぜひ計画段階からみなさんには参加してほしい。でも、本当に集まってくれますか。
- ・実際、この地域のことをよく知らない人は多い。具体的にみなさんはどのように伝えようとしているのですか。また、みなさんが卒業した後、誰がその意思を引き継ぐのですか。
- ・おもしろそうなイベントについては、私たちが考えている。しかし、実際、なかなか難しいのです。ぜひアイデアがほしい。

地域の人の話を聞いて、グループごとに  
考えを見直しましょう。

- ・ごみ拾いやあいさつを地域の人に呼びかける方法を考えよう。
- ・12月から「サイの神」についてポスターを貼ったり、昼の給食の時に全校の子どもに呼びかけたりしてはどうか。
- ・地域の祭りは夏に多い。いつからどこで話し合っているか聞こう。
- ・これまでに自分たちが調べてきたことを発表する場がほしい。学校では1月と2月に参観日がある。
- ・今の5年生にも、この地域のよさを伝えなくては。
- ・「みんなが楽しめるおもしろそうなイベント」を考えるのは難しい。「児童会祭り」がヒントになるかな。

グループごとに見直した点を発表しま  
す。

<自分たちでできること>

- ・「サイの神」について、全校の子どもに伝えるように細かな計画を立てる。
- ・「元旦マラソン」や「餅つき大会」等の地域の行事にまずは自分がもっと参加したい。
- ・校内でこの地域のよさを伝える場をもつように計画を立てる。

<地域の人と相談しながら進めること>

- ・地域の人ににごみ拾いを呼びかけたい。
- ・地域でも、この地域のよさを伝えるような場をもてないか。
- ・地域の行事の計画段階から、私たちが参加させてもらいたい。
- ・自分たちが考えたこのイベントはおもしろいと思ったが、もっとみんなが楽しめるように改善した。

今日の学習で、心に残ったことを発表し  
てください。

関係のあるものに気付く。  
【聞く様子の観察  
・グループでの話し合  
いの様子の観察】

- ・地域の人の話を板書し、整理する。
- ・必要に応じて付箋紙に見直す考えに対するアイデアを書かせる。

友達と話し合い、提  
案の見直しに関する意  
見を述べる。  
【グループでの話し合  
いの様子の観察】

- ・グループで話し合っている際、地域の人にも入ってもらい、質問や意見の交流を図る。
- <Cへの手立て>
- ・提案で受け入れられた点、見直しを勧められた点を確認し、考えを一つは出すように働きかける。

グループごとに見直  
した点を発表し、地域  
の人に考えを伝えるこ  
とができる。【発表の  
様子の観察】

- ・1つのグループの発表時間を、2分間程度とする。
- ・地域の人への要望も発表させる。

- ・各グループ1名程度の子どもに指名し、この時間を振り返る。

返る。  
(4分)

- ・ 3人の人から意見がもらえてよかった。
- ・ 「みんなが楽しめる」ということが、難しいと思った。
- ・ 「まちづくり」について考えることは大変だけど、楽しいと思った。